

人・物・情報が交流する 活力あるまちづくり



本市は、関西経済圏から最も近い日本海側の港湾都市であり、「東アジアに躍動する国際港湾・交流都市」を都市像に掲げ、玄関口である「京都舞鶴港」を中心に人・物・情報が交流する活力あるまちづくりに取り組んでいます。シリーズ市政の「今」第33回は、京都舞鶴港を活かした人流・物流の拡大と都市機能を支える道路交通網の整備促進についてお知らせします。

国際ゲートウェイ「京都舞鶴港」

京都舞鶴港は、関西圏日本海側唯一の国際貿易港であり、東アジアへの至近性という地の利を活かした日本海側拠点港として、「国際海上コンテナ」、「国際フェリー・国際RORO船」※1、「外航クルーズ」の3つの機能の充実を図っています。

関西経済圏をはじめとした国内各経済圏と対岸諸国を結ぶ国際ゲートウェイとしての機能を果たせるよう競争力を強化するために、多目的国際ターミナル「舞鶴国際ふ頭」を中核として、コンテナ船、RORO船が2隻同時に着岸できる岸壁の整備、大型クルーズ客船の入港を可能とする岸壁の整備、多目的クレーンの設置、高速道路と港湾施設へのアクセス向上などの整備を

国・府と連携して進め、名実ともに京都舞鶴港が日本海側の拠点港として確立されるよう利用促進に取り組んでいます。

人流・物流の拡大へ

平成26年7月に「舞鶴若狭自動車道」、昨年7月には「京都縦貫自動車道」がそれぞれ全線開通するなど、京都舞鶴港を取り巻く交通網の整備が着実に進んでいます。これらの好影響から、京都舞鶴港における平成27年度の取扱貨物量は、1,103万トとなり、6年連続で1,000万トを超えました。

「国際海上コンテナ」では、荷物を京都舞鶴港に集積するため、京都舞鶴港振興会を中心に府や港湾会社と緊密に連携し、年間1,400社以上の事業所を訪問するなどの積極的なポータルセールスを

行った結果、韓国航路（釜山港）の週2便化が実現し、取扱コンテナ量もこの5年間で、2倍以上に伸びました。

「国際フェリー・国際RORO船」については、貨物輸送を境港（東海港（韓国））ウラジオストク港（ロシア）の航路を舞鶴まで延長する準備運航が昨年7月から開始。8月からは毎週運航となっているほか、旅客についても、昨年12月に東海港と京都舞鶴港を直行するトライアル運航※2が実施されました。引き続き、旅客輸送を含めた直行航路開設に努め、日韓露国際フェリー航路の早期開設に取り組んでいきます。

「外航クルーズ」では、一度に多くの乗客を迎え入れられる京都舞鶴港を玄関口として、今年度は、舞鶴で乗下船可能な

るクルーズ客船の誘致や母港化の実現に取り組みます。

LNG基地の誘致

京都舞鶴港を北近畿のエネルギー拠点とするため、京都府と兵庫県が中心となり、有識者や地元経済界、ガス・電気事業者を交えて開催している「北近畿エネルギーセキュリティ・インフラ整備研究会」に本市も参加。この研究会では、国土強靱化の観点から京都舞鶴港をLNGの受入拠点とすることや、舞鶴から三田市までの天然ガスパイプライン整備の必要性などが議論され、その内容については両府県とともに国へ政策提案しているところだ。

また、将来的なLNGの安定調達を見据え、昨年9月に締

結された京都府と米国アラスカ州との「エネルギー資源に関する協力の覚書」に基づき、5月末に京都府アラスカ訪問団に多々見市長が同行。現地政府関係者からLNGの輸出計画について説明を受けるとともに今後の交流について協議しました。

本市におけるLNG受入基地の立地や天然ガスパイプライン整備の実現は、タンカーの定期的な寄港や工場立地の優位性の向上、新たな雇用創出など地域経済への波及効果が期待できるため、今後も府と連携し、積極的な取り組みを図っていきます。

都市機能を支える道路網の整備

道路網の整備は、京都舞鶴港の機能強化や地域経済の活性化をはじめ、市民生活の利便性の

向上を図る上で必要不可欠なものです。また、本市と他市を結ぶ都市間連携などにおいても、「人・モノ」が交流する活力あるまちづくりに欠かせない都市インフラとなっています。

本市を取り巻く道路環境については、高速道路網の全線開通のほか、西地区の交通渋滞の緩和と市街地からのアクセス改善を目指す基幹道路整備の重点事業である「国道27号西舞鶴道路（上安〜京田間約4・9キロメートル）」の用地買収が着々と進められ、本年度からは一部工事に着手しています。物流機能向上のため京都舞鶴港と連結する臨港道路上安久線の整備と併せ、引き続き国・府と連携した事業の促進を図っていきます。

また、東西市街地を最短距離

で結び、東西の都市機能を一体化させる「府道小倉西舞鶴線」では、伊佐津川から東側約320メートルの拡幅整備に取り組んでおり、昨年度、舞鶴赤十字病院前に左折車線の設置が完了しました。また、歩行者・自転車の通行の安全性向上と慢性的な渋滞解消を目指し、白鳥トンネル区間の4車線化（約1・4キロメートル）について、平成32年度の完成を目途に府と連携して事業を促進していきます。

市の幹線道路の整備については、円滑な交通の確保や定住促進、経済活動の活性化を図るよう、次の2路線の改良事業に取り組んでいます。

1つ目の「和泉通線」の南工区（340メートル）は、両側に歩道を備えた片側2車線の道路とし、府道小倉西舞鶴線まで延伸します。

2つ目の「引土境谷線」の伊佐津七日市線から国が整備を進める西舞鶴道路までの区間（370メートル）は、両側に歩道を設けた片側1車線の道路とします。また、現在伊佐津川に架かる境谷橋（歩行者と自転車のみ通行可）に代わり、自動車も通行可能な橋を整備します。



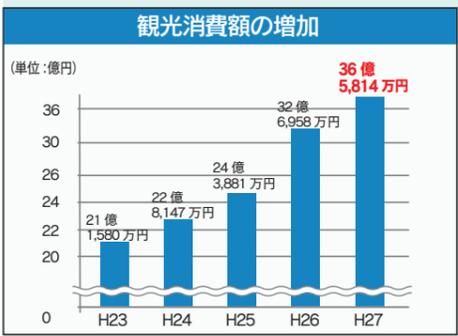
▲京都舞鶴港西港



▲舞鶴港に寄港した「コスタ・ビクトリア」



▲アラスカ州（米国）を視察する多々見市長（5月28日）



※1 国際RORO船…旅客を乗せない貨物自動車専用フェリー
※2 トライアル運航…旅客などの航路実現のため、集客の可能性や満足度などについて検証を行う試験運行のこと